

# タイでのユーカリ (*Eucalyptus camaldulensis*) の萌芽更新の試み

渡 辺 弘 之

北部タイでのチーク (*Tectona grandis*) あるいはマツ類 (*Pinus merkusii*, *P. kesiya*, *P. oocarpa*, *P. caribaea*) を除いて、他の地域での目下の造林樹種はもっぱらユーカリ、それも *Eucalyptus camaldulensis* である。もちろんユーカリの他、キダチヨウラク (ヤマネ) (*Gmelina arborea*)、タイワンセンダン (*Melia azedarach*)、インドセンダン (*Azadirachta indica*)、ビルマカリン (*Pterocarpus macrocarpus*)、カマバアカシア (*Acacia auriculiformis*) などが植栽されているし、ユーカリでも一部には *E. tereticornis*, *E. alba*, *E. deglupta* などが植栽されているが、面積的にはほとんどが *E. camaldulensis* であるといっている。とくにチャチャエンサオ地方周辺には、広大なユーカリ林がある。

これまでタイでの早生樹の中で最も重要な植栽樹種であったキダチヨウラクは、カンチャナブリ地方をはじめ、各地でひどい虫害 (ハムシによる葉の食害など) を受け、ユーカリその他の樹種への改植が行われている。

これだけ大面積の同齡、単一樹種の、それも外国産樹種による森林の造成は、将来生態学的・造林学的に、さまざまな問題を引き起こすのではないかと心配しているのだが、案内されたユーカリ林はどれも驚くほど生育はよく、虫害もなかった。植栽間隔は普通 1.5 m × 2 m だが、2年で樹高 6~7 m、3年で 10 m を越えている。山地だけでなく学校や村落の周囲、さらには水田のあぜや街路樹としても植えられている。*E. camaldulensis* のシラカバのように白い肌は、どこでもよく目立っている。

さて、この植栽に必要な苗木の供給だが、チャチャエンサオなどでは民間の育苗業者によりすでに大量の苗木が生産されている。ここでは種子はオーストラリアから輸入しているとのことだった。しかし東北タイのカラシンの森林産業機構 (FIO) の森林村では、植栽地ですでに結実しているユーカリから種子を採取し、これから苗木生産をしていた。実際ユーカリの開花・結実は早く、3年生でもう花や実がついている。

苗木の供給はスムーズで、それが森林再生キャンペーンにのり、ユーカリ林の拡大を促している一つの理由でもあるのだが、問題は 10 年あるいは 15 年伐期での収穫後の再造林のことである。結実し始めてまだ数年しかたっていないせいもあるかも知れ

---

WATANABE, Hiroyuki: On a Trial of Coppicing of River Red Gum *Eucalyptus camaldulensis* in Thailand  
京都大学農学部



写真-1 伐根からの萌芽の発生



写真-2 3年生ユーカリ

ないが、ユーカリ林の中に稚樹はまずはえていない。みつけたのは南タイでの数本だけで、林床にびっしりと稚樹のはえたイピルイピル (*Leucaena leucocephala*) といい対照だった。ユーカリの天然下種による更新は、どうも期待できそうにないらしい。

苗木の供給が可能なのだから植栽すればいいのだが、保育とくに生育旺盛な雑草に対する年2~3回にも及ぶ下刈、さらには植栽7年までつづく野火防止のための下刈には、きわめて大きな経費を必要とする。おまけに伐期は燃料材として10年あるいは15年、用材として20年を予定しているという。短期間で伐採がくり返されるということになる。さらにほとんど同年に全国的に伐採が行われることになり、苗木生産、造林のための労働配分上にも無理が生じよう。

ユーカリにはアレロパシー（他感作用）があり、発芽してくるユーカリの稚樹あるいはその他の植物の生育を抑制するといわれているが、明瞭な証拠はみられなかった。稚樹の発生がないのは、このこととは直接的には関係ないようであるが、注目しておくことのひとつであろう。

タイ国滞在中カンチャナブリの奥、オンパーでユーカリの萌芽更新の試みをみる機会があった。対象のユーカリ (*E. camaldulensis*) はわずか5年生であるが、すでに直径10 cmに達している。伐採はいわゆるナスビ伐りで、直径10 cm以上の大きなものを伐っている。10年あるいは15年伐期だと聞いていたのに、なぜ早く伐めるのかと聞いたところ、ちょうどこのサイズの値段がいいこと、間伐の必要があるとのことだった。このサイズで一本75バーツ（約500円）で売れるという。少し値が大きいのではと思ったのだが、これでhaあたり約46 m<sup>3</sup>の伐採、材積で10%くらいの間伐率になるという。

ユーカリの伐採にはノコギリで地上12 cm くらいのところから約45°の角度で伐

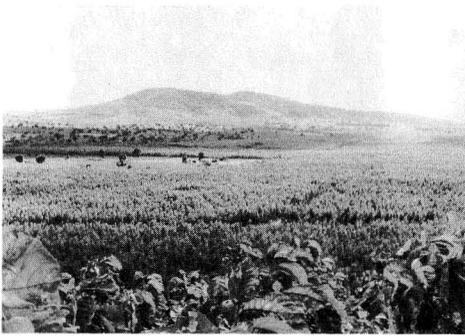


写真-3 チャチャエンサオ周辺の広大なユーカリ林

る。伐ったのは雨期の6月のことであったが、1週間後には伐根の数か所から数本ずつの萌芽がかたまってきた。2週間後にこの萌芽の中から伸びのいいもの、萌芽位置のいいもの2~3本を残し、あとは全部つみとってしまう。面白いことに萌芽は初めは斜めに伐った切口の低い方の側からだけできてきた。残した2~3本の萌芽をすべて伸ばすのか、あるいは一本だけにしようのか気にしたのだ

が、しばらく様子を見るとのことだった。いずれは一本に仕立てるらしい。

いずれにしろ、萌芽がうまくいけば、植栽の必要がなくなる。萌芽による生育・樹形・材質が実生とくらべてどんなものか注目しているし、この萌芽更新の成功を期待している。

(付記)

オーストラリアではユーカリに萌芽更新を利用しているとも聞くが、サバ、カリマントンなどに大面積に植えられたカメレレ (*Eucalyptus deglupta*) に対する萌芽更新の試みはないのだろうか、ご教示をお願いしたい。

### 事務所移転のお知らせ

当協会は7月29日より事務所を下記に移転しましたのでお知らせします。

〒102 東京都千代田区岩本町2-9-3 第二片山ビル9F

TEL: 03-865-3435, 3436 FAX: 865-3437

なお振替口座は元通り、東京6-139657です。

### 《お詫び》

本誌第9号23頁の新刊紹介「乾燥地の造林」において、8行目の一部の文字が印刷上のミスで脱落し空白になっております。この部分は“これにF.J. Holmanによる”となります。お詫びするとともに、ご訂正くださいますようお願いいたします。